

8. 河川改修事業

➤ 長良川遊水地事業

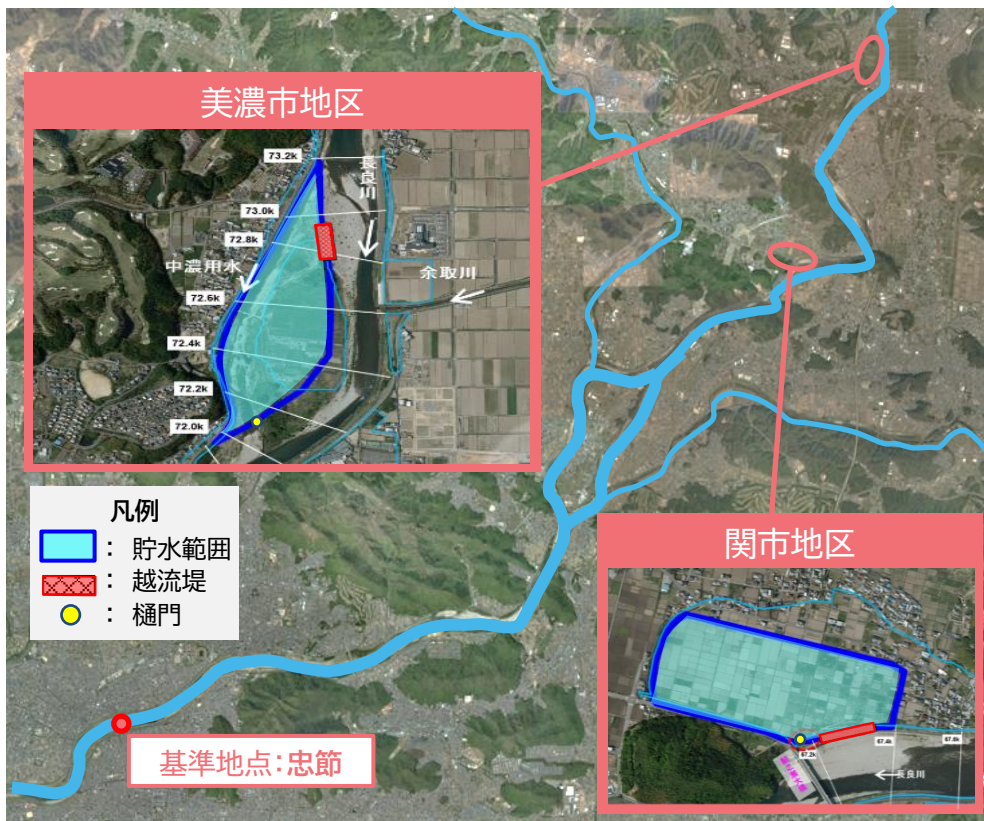
戦後最大規模の洪水を安全に流下させるため、遊水地を整備します

長良川では、戦後最大規模の洪水に対し、遊水機能を活かした洪水調節施設として、遊水地の整備を進めています。

この整備により、基準地点忠節において戦後最大規模の洪水に対して約200m³/sの流量低減を見込んでいます。

美濃市地区は令和3年4月、関市地区は令和6年1月に大臣管理区間に指定しました。

※木曾川水系河川整備計画(平成20年3月策定、令和2年3月変更)



➤ 木曾川上流特定構造物改築事業(新水門川排水機場)

国・県・市が協働して、新水門川排水機場と牧田川左岸堤防を一体的に整備します

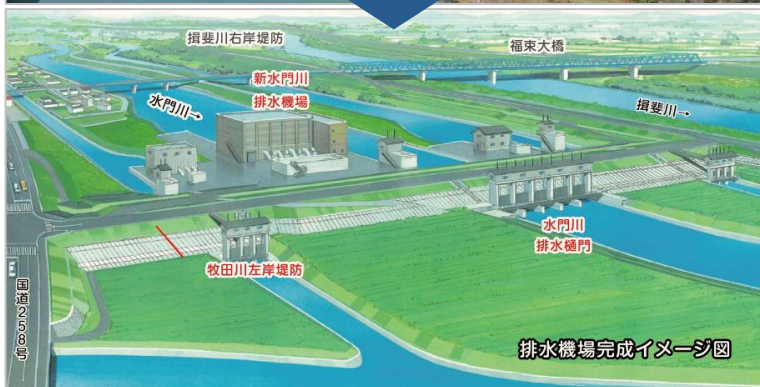
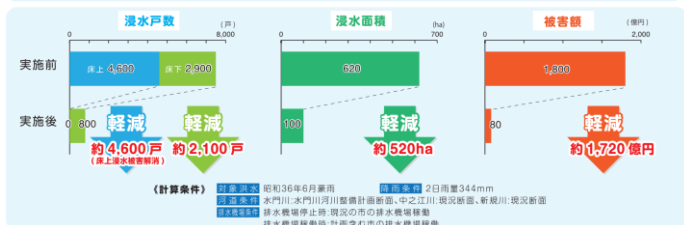
新水門川排水機場(国管理、昭和43年完成)、水門川排水機場(岐阜県管理、昭和25年完成)は設置から50年以上経過し、老朽化が著しくなっています。また、現況の牧田川左岸堤防の高さと厚みは十分ではありません。

このため、令和3年度より、新水門川排水機場と牧田川左岸堤防の一体的な整備に、国・県・市が協働して取り組んでいます。



事業効果

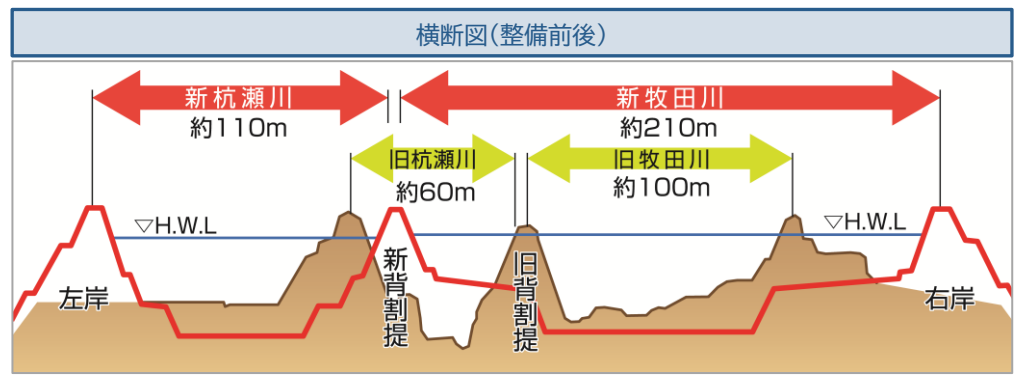
昭和36年6月洪水と同規模の降雨を想定した場合、新水門川排水機場が停止すると、浸水戸数約7,500世帯、浸水面積約620haの被害が想定されます。木曾川上流特定構造物改築事業(新水門川排水機場)により床上浸水被害の解消を図ります。



➤ 牧田川烏江地区堤防整備事業

牧田川・杭瀬川の洪水をより多く流せるよう、旧背割堤の撤去等を実施します

平成14年7月台風6号を受け、牧田川・杭瀬川の洪水をより多く流せるよう、河川災害復旧等関連事業にて牧田川・杭瀬川の河道を広げるための築堤、河道掘削、護岸整備を実施し、平成19年度末に完成しました。
その後、牧田川下流の堤防を整備し、現在は河道掘削(旧背割堤撤去等)を実施しています。



➤ 犀川遊水地事業

長良川本川の洪水負荷軽減と犀川流域の内水被害の軽減のため、遊水地を整備します

犀川遊水地事業は、長良川本川の洪水負荷軽減と犀川流域の内水被害の軽減を目的に、昭和56年度に着工しました。
現在は、遊水地整備に伴う支川の付替えに取り組んでいます。



地域の皆様と牛牧排水機場の完成を祝いました！



堤防整備等に伴い(旧)牛牧排水機場の移設が必要となったため、瑞穂市から費用を一部受託し、国が(新)牛牧排水機場の整備を実施しました。
令和7年5月31日には完成式典が開催され、地域の皆様と完成を祝いました。

木曾川起・小信中島地区堤防改築事業

高さや厚さが不足する起・小信中島地区の特殊堤を、より安全な土堤に改築します

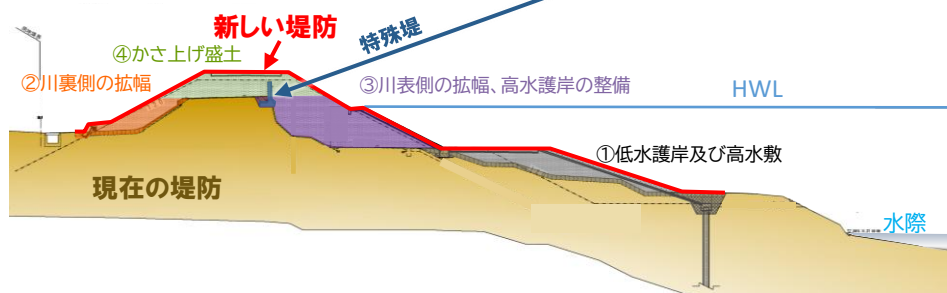
木曾川起地区及び小信中島地区は背後に市街地などを擁する重要な区間です。

一方で当該区間の堤防は、昭和30年代以降に、コンクリートの壁で整備された「特殊堤」と呼ばれる構造であり、老朽化が進みつつあります。また、堤防の幅(断面)や高さも不足しており、堤防のかさ上げと拡幅が必要です。

このため、堤防の老朽化対策、断面の拡大、高さの確保を目的に、築堤・護岸整備を実施します。



特殊堤の様子(川表側から)



令和7年度の工事の様子



完成予想イメージ



河道の二極化対策

自然の営力を活用しつつ、治水と環境の両面から、河川のあるべき姿を目指します

河道の二極化が顕在化しています

長年にわたる堤防整備や河道掘削などにより、洪水の流下能力を拡大してきた一方で、植生の繁茂等による河道の二極化が顕在化しています。

河道の二極化とは、砂州上に細かい土砂が堆積する一方で、みお筋(普段水が流れているところ)の深掘れが進み、砂州とみお筋の河床の高低差が過度に大きくなる現象です。

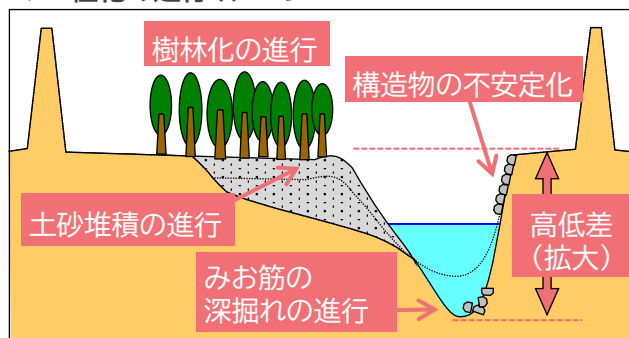
目指すべき河川のすがた

二極化の進行による悪影響を減らすための取り組みを以下の観点から進めていきます。

治水 砂州上の細粒土砂の堆積、みお筋の過度の洗掘を抑制し、洪水時の流下能力及び構造物の安定性を確保します。

環境 河川が本来有している多様性に富んだ水辺環境を保全・再生します。

▼二極化の進行イメージ



▼二極化対策の実施(試行)後

